

平成26年度病害虫発生予報第9号

平成26年10月1日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要

区 分	農 作 物 名	病 害 虫 名	発生時期	予想発生量
果 樹	ナシ	黒星病	—	やや多い
野 菜	キャベツ、 ブロッコリー	軟腐病 黒腐病 べと病 コナガ ハスモンヨトウ	平 年 並 やや早い 平 年 並 平 年 並 平 年 並	平 年 並 やや多い 平 年 並 やや少ない やや少ない
	ネ ギ	黒斑病 さび病 ネギアザミウマ ネギハモグリバエ シロイチモジヨトウ	— 平 年 並 平 年 並 平 年 並 平 年 並	平 年 並 やや多い 平 年 並 平 年 並 平 年 並
花 き	シ バ	葉腐病（ラージパッチ） さび病 スジキリヨトウ シバツトガ	平 年 並 平 年 並 平 年 並 平 年 並	平 年 並 平 年 並 平 年 並 平 年 並

気象予報（抜粋）

1か月予報（9月27日～10月26日：9月25日、広島地方気象台発表）

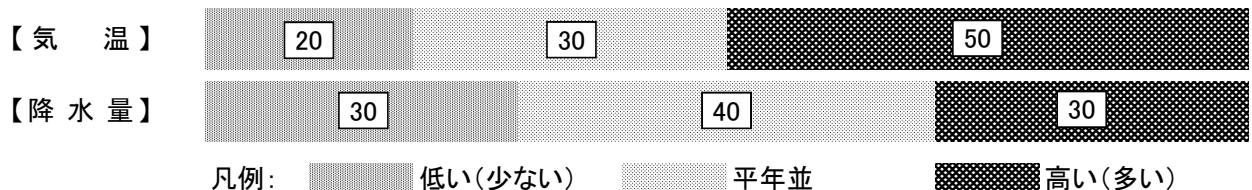
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

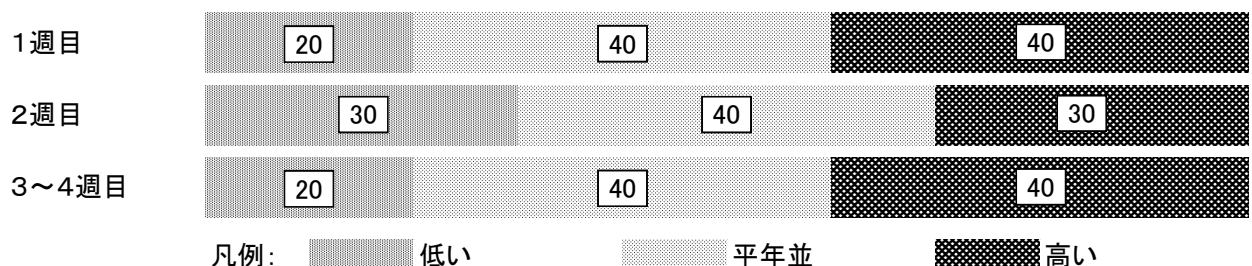
向こう1か月の平均気温は、高い確率50％です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40％です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに40％です。

<向こう1か月の気温、降水量の各階級の確率(>



<気温経過の各階級の確率(>



果 樹

[ナ シ]

1 黒星病

(1) 予報の内容

発 生 量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、県予察ほ場（北栄町）における果そう葉での発生量はやや多くなっている。

イ 収穫果実に発生の認められる園が散見された。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 秋期の発病は早期落葉と越冬菌密度の増加につながるので、収穫終了後の薬剤散布を徹底する。

イ 多発園では、10月上旬にアントラコール顆粒水和剤500倍液など、10月下旬にデランフロアブル1,000倍液などを散布する。10月下旬以降にも気温が高めに推移する場合は、落葉が80%程度の時期にオキシラン水和剤600倍液などを散布する。

ウ 秋期防除には、耐性菌の発生リスクを回避するためEBI剤及びストロビルリン系薬剤の使用は避け、次年度の防除計画等を考慮して薬剤を選定する。

エ 越冬菌密度を下げるため、落葉後(11～12月)の落葉処分を励行する。

野菜

[キャベツ、ブロッコリー]

1 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発 生 量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はほぼ平年並である。

イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

イ 圃場の排水に努める。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候回復後できるだけ早く薬剤散布する。

エ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水和剤）1,000倍液、ドキリンフロアブル800～1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

オ ブロッコリーの防除薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生時期 やや早い

発 生 量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや多い。

イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期はやや早く、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。

イ ほ場の排水に努める。

ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候回復後できるだけ早く薬剤散布する。

エ 肥料不足で発病が助長されるため、肥料切れしないよう注意する。

オ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水水和剤）1,000倍液、ドキリンフロアブル500～1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

カ ブロッコリーの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー又は銅シン水水和剤）1,000倍液、キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液、Zボルドー500倍液などを散布する。

3 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 本病は気温が比較的低温、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、ヨネポン水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液、マンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など）400～600倍液、フォリオゴールド800～1,000倍液などを予防散布する。

イ ブロッコリーの晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすい。

ウ ブロッコリーの薬剤防除は、中～晩生品種ではフォリオゴールド1,000倍液を10月中旬～11月上旬頃の発生初期に10日間隔で2回散布する。

4 コナガ

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における幼虫の発生量はやや少ない。

イ 県予察ほ場（北栄町）および現地調査ほ場におけるフェロモントラップによる成虫の誘殺数はやや少ない。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツでは結球開始期に、ブロッコリーでは花蕾抽出期までに、トルネードエースDF2,000倍液、アニキ乳剤2,000倍液などを散布する。

イ 上記生育期以降に発生がみられる場合は、キャベツ、ブロッコリー共に、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液、プレオフロアブル1,000倍液などを散布する。

5 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並
発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 県予察ほ場（北栄町）および現地調査ほ場におけるフェロモントラップによる成虫の誘殺数はやや少ない。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量はやや少ないと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫のうちに防除を行うのが効果的である。ほ場内を観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。

イ キャベツでは、トルネードエースDF2，000倍液、アニキ乳剤2，000倍液、マトリックフロアブル2，000倍液などを散布する。

ウ ブロッコリーでは、アニキ乳剤2，000倍液、プレオフロアブル1，000倍液などを散布する。

[ネ ギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量はやや少ない。

イ 本病は平均気温25℃前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足で発病が助長されるので、肥培管理に注意する。

イ 防除薬剤は、ロブラール水和剤1，000～1，500倍液、ポリベリン水和剤1，500倍液などを散布する。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並
発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生は認められていない。

イ 本病は、夏期の気温が低いと秋期の発生が多くなる傾向がある。

ウ これまでの気象経過及び向こう1か月の気象予報から、発生時期は平年並、発生量はやや多いと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

発病前の10月中旬頃（平坦部）からマンゼブ水和剤（ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤など）600倍液を10日間隔で2～3回散布する。その後の発生には、オンリーワンフロアブル1，000倍液、ラリー乳剤4，000倍液などを散布する。

3 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並
発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 県予察ほ場（北栄町）における発生量は平年並である。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、ランネート45DFの1,000倍液、ハチハチ乳剤

1,000倍液、ウララDF1,000～2,000倍液などを、7～10日間隔で10月中旬頃までローテーション散布する。

4 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アグロスリン乳剤2,000倍液、オンコルマイクロカプセル

1,000倍液などを散布する。

5 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生量は平年並である。

イ 県予察ほ場（北栄町）および現地調査ほ場のフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並である。

ウ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫による葉先の被害がみられる場合は、スピノエース顆粒水和剤5,000倍液、トルネードエースDF1,000倍液などを散布する。

[シバ]

1 葉腐病（ラージパッチ）

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地調査ほ場における発生は認められない。

イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

本病は予防散布が効果的であり、防除薬剤はグランサー水和剤500倍液0.5L/m²、センチネル顆粒水和剤2,500倍液250mL/m²などを用いる。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。
イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。
- (3) 防除上注意すべき事項
発生初期にバシタック水和剤75の500～1,000倍液1～2L/m²などを散布する。

3 スジキリヨトウ

- (1) 予報の内容
発生時期 平年並
発生量 平年並
- (2) 予報の根拠
ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。
イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。
- (3) 防除上注意すべき事項
幼虫の発生がみられる場合は、リラークDFの2,000～3,000倍液0.3～1L/m²、ダイアジノン乳剤40の1,000倍液0.3～1L/m²などを散布する。

4 シバツトガ

- (1) 予報の内容
発生時期 平年並
発生量 平年並
- (2) 予報の根拠
ア 9月下旬現在、現地調査ほ場（生産シバ）における発生量は平年並である。
イ 向こう1か月の気象予報から、発生時期、発生量ともに平年並と予想される。
- (3) 防除上注意すべき事項
幼虫の発生がみられる場合は、リラークDFの2,000～3,000倍液0.3～1L/m²、ダイアジノン乳剤40の1,000倍液0.3～1L/m²などを散布する。

[おしらせ]

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守するとともに、周辺への飛散には十分注意しましょう。

農薬の詳しい登録内容は、独立行政法人 農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(http://www.famic.go.jp/)

なお、農薬の使用や防除指導等に際しては、農薬のラベルを必ず御確認ください。

＜鳥取県病虫害防除所ホームページ＞

アドレス	http://www.jppn.ne.jp/tottori/
------	---

病虫害発生予察情報、フェロモントラップ調査結果（ナシのシンクイムシ類）などの参考情報、病虫害の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

＜お問い合わせ＞

普通作物関係：〒680-1142 鳥取市橋本 260

鳥取県病虫害防除所

（TEL：0857-53-1345、E-mail：boujyot@titan.ocn.ne.jp）

もしくは

鳥取県農業試験場環境研究室

（TEL：0857-53-0721、FAX：0857-53-0723）

果樹・野菜・花き関係

〒689-2221 東伯郡北栄町由良宿 2048

鳥取県園芸試験場環境研究室

（TEL：0858-37-4211、FAX：0858-37-4822）

※予報第10号の発表は、12月3日（水）の予定です。